1977年春季研究発表会

1977年春季研究発表会は3月17日(木)，18日(金)早稲田大学理工学部で行なわれました．この大会は早大システム科学研究所西野吉次教授を実行委員長とする計16名の実行委員によって準備されました．以下，実行委員会及び出席者による報告をお届けします．

全貌　今回の特別テーマは「システムダイナミックス」で，やはり内容的には特別テーマに関するものと一般のもの，形式的には一般形式とペーパー・フェアとにわけました．この他に特別講演，部会報告を合わせ，合計83件の発表がありました．

大会の出席者は，正会員186，学生会員57，賛助会員17，非会員22，合計282で，ほぼ平均的といえるでしょう．

懇親会は17日晩早大の生協で行ないましたが，北川一栄会長，前会長森口繁一先生をはじめ37名の方々が集まり，東京での懇親会としては盛大なほうでした．見学会は19日(土)の午前に日本出版販売の王子の流通センターにいきましたが出席者はわずか7名でした．

なおこの他16日(水)にはシンポジウムが行なわれ（これについてはいずれ別にくわしい報告があると思いますのでここでは省略します），16日夜にはシンポジウム座談会，17日昼には支部長会議，18日昼には受賞論文審査会，18日夜にはORサロンが行なわれました．

特別講演は特別テーマと直接関係あるものとして，17日に大来佐武郎氏の「成長の限界とその後」と題する一般的な興味のあるお話，18日に加藤一郎氏の「サイボーグとロボット」と題するフィルムなどを交えた技術的な興味をもつお話をいただきました．

研究発表(ペーパー・フェアを除く)は51件（このうち発表番号R17の論文は事情により取り消しとなりました）で，そのうち特別テーマに関連あるものは6件で，それ以外はやはり待ち行列，数理計画，在庫，スケジューリングなどの理論と応用といったものが多くありました．

一般発表の場合，発表の技術というものをもう少し工夫できないかというご意見が座長のほうからもまたORサロンの席上でも出ました．もち時間は20分なのですがその間に研究した内容を全部いってしまおうとして，つぎからつぎへとプロジェクターの用紙をかえ，立て板に水という具合にやられますと，追いついていける人はごくわずかです．むろん講習会での解説ではないのですから初心者にわかるようにとは要求しませんが，くわしい内容は論文としてまとめることにし，発表のときは要点だけを効果的にという具合にしたいものです．

ペーパー・フェアは全部で19件で特別テーマに関連するものは4件でした．真鍋さん他の「ORモデルとモデルづくり」といった一般的内容のものに人気があったようでした．もち時間は50分でこれは適当だと思いますが，会場を1教室(50人部屋)に2組を同時に行なった点で，やはり隣りのがうるさいという感じはまぬがれませんでした．ペーパー・フェアはできるだけコンパクトにそして開放的にと思って1部屋に2組を入れたのですが，1組に1部屋がよかったと思います．

この他部会報告11件，もち時間は25分でこれはとくに問題はなかったようです．

反省　以上ざっと見わたしてみたのですが，なんといっても一番気になるのは，見学会への出席者が異常に少なかったことです．これは土曜であったせいもありますが選択の不適切さ，宣伝不足など反省している次第です．なおその他さまざま不手際なところがあり，この場をお借りして会員の皆様におわびする次第です．

（実行副委員長　**高橋磐郎**）

◇

一般発表（日本的ORの芽生え）

日ごろ，ベートーベンやショパンのピアノとともに育っている子供たちが，外で遊ぶときにみんなで歌う歌は「あした天気になれ」「かごめ」など，日本古来のわらべ歌であるという．それは何故であろうか．今季発表会の後でふとこのようなことが頭に浮かんだ．

ところで，今回の一般発表論文件数は大学41，企業10で，理論に関するテーマが全体の7割を占め，それにつづく地域環境や交通に関するものが1割で，やはり時代を反映していると思った．そして私の拝聴した中では，日立の佐藤氏「季節贈答商品の売上量予測管理システム」や，清水建設の長谷川氏「SAD法の研究事例報告」などがとくに印象的であった．

そして，全般を通じて熱の入った発表討論が多かったが，そこでふと感じたことは，日本人にはやはり日本古

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．

来の義理人情などの性質が生きつづけているということで，これら表面にはあらわれていない要素を無視すると，最後のつめができずに，きれいではあるが役立たない答えになりかねないということであった．

ふだんは気づかないが，日本人なら誰もが心の底にもっているもの，このような要素を今後のORでは取り入れてゆかなければならないのではなかろうか．

たとえば歌の世界ではこんな話もある．それは第二次大戦で2人の息子さんの戦死の公報が入ったとき，那覇におられたそのお母さんは，電報を受け取るやそれをふところに入れて，裏の倉に入り人知れず「ミァークジツ」という沖縄本島の人びとが，自分の思いを即興的に歌い込んだりして，日常的によく歌う美しい歌を，延々2時間も歌いつづけたという．つまり歌の世界では日本古来の姿が汚されずに温存されているのは沖縄だといわれている．

いずれにしても，今回の発表会で若い人たちが堂々と立派な論文を発表されているのを拝聴して感動した．

やがて，繊細的創造性や勤勉性などの特徴を生かした日本独特のORが，日本の資源の無さを補って余りある大きな力として，この平和で美しい日本を救ってくれるであろうという希望が，ほのぼのとこみ上げてくるような発表会であった．

（江副　力）

ペーパー・フェア雑感

子供のころ，祭の夜店をひやかし歩くことほど楽しい夜はなかった．お面屋をのぞき，はっかパイプをもとめ，金魚すくいを眺め，お気に入りのロウソクで走るポンポン蒸気の前にしゃがみこむ．ペーパー・フェアはそのように開放的な雰囲気で心おきなくやりとりすることをねらって企画されたものと聞く．年々この催しが定着もし参会者もこれになじんできたことは喜ばしきことといえる．

だが，今春は会場の都合でいささか勝手が違っていたようだ．会場は頑丈な扉のついた4つの教室にわけられ，それぞれを2分して使っていた．重い扉を押しあけて中をのぞこうとすると，扉のすぐ脇で弁士がしゃべり，参会者の顔がこちらに向いていて何となく入りにくい．つぎへ渡り歩こうと思って室を出るのはなおのことバツが悪い．ついつい終わるまでそこに座りこんでしまった．

という次第でいつものようにぶらりぶらりと眺め歩いたわけではないので内容についてはごく一部の発表のことしかわからない．よって割愛させていただくとする．あとでアブストラクトを読んでみるとおもしろそうなものが多く，見のがして残念に思う．

以上ルポ担当としてはまったく失格であったが，もう少しムードだけを伝えておこう．1時間のあいだ質問を適当にうけながら懇切ていねいにご指導くださるレクチュア調あり，逆に参会者に意見を求めながら盛んにやりとりするものあり，そうかと思うと15，6枚のビラをところ狭ましとうち並べ，これセールスにつとめるものあり．会場の具合にもかかわらずそれぞれの場では一般発表とは味の違うゆとりのあるやりとりがあった．仕切られた会場ゆえのうちとけたムードであったともいえる．

（森　雅夫）

学会会合記録

（　）内は人数

研究普及委員会　4月19日　(13)

総　会　4月25日　〔384ページ参照〕

理事会議題

第6～8回理事会および評議員会の議題を掲載していませんでしたので，ここにまとめて収録しておきます．

第6回理事会（1月21日）

1. 第5回理事会議事録の承認
2. 入退会の承認
3. 日本学術会議報告
4. 春季研究発表会の準備状況
5. 秋季研究発表会
6. 研究受託
7. IAOR 委員会規定
8. 第8回 IFORS
   1）代表論文と審査　2）代表団派遣
9. 事務局体制検討委員会報告
10. 創立20周年記念事業
11. 昭和52年度事業計画案
12. 昭和52年度予算案
13. 昭和52年度役員候補者
14. 定期総会の日時

第7回理事会（3月4日）

1. 第6回理事会議事録の承認
2. 入退会の承認
3. 名誉会員推薦の件
4. 52年度役員候補者
5. 研究部会新設
6. 研究部会の終了ならびに中間報告
7. 春季研究発表会の準備状況報告
8. 第20回自動制御連合会講演会開催について協力依頼

© 日本オペレーションズ・リサーチ学会．無断複写・複製・転載を禁ず．